

2024年 てん菜褐斑病試験

帯広市農業技術センター

住友化学株式会社

てん菜褐斑病防除効果試験：試験設計

【目的】

2025年度に上市予定の新規殺菌剤・フセキFLのテンサイ褐斑病への防除効果を確認する。

【試験概況など】

- ・本試験は多発生条件での試験となった。
- ・諸事情により、1区10株2反復と一般的な委託試験で設計される
試験株数より少ない試験となった為、結果はその点を考慮し考察したい。

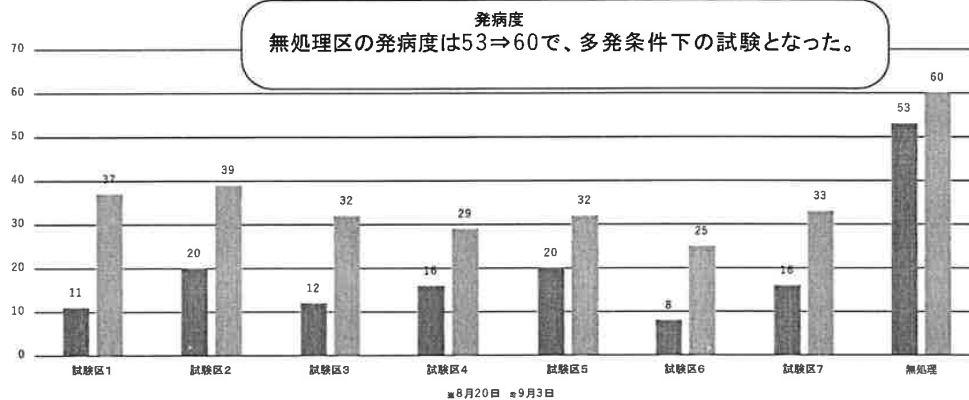
	散布	散布	散布	散布	散布	散布・調査	調査のみ
試験区	6月25日	7月4日	7月17日	7月29日	8月6日	8月22日	9月4日
1	M剤	M剤	M剤	M剤	M剤		
2	フセキ(3000)	フセキ(3000)	フセキ(3000)	フセキ(3000)	フセキ(3000)		
3	フセキ(3000)	M剤	M剤	M剤	M剤	M剤	
4		M剤	M剤	M剤	M剤	M剤	
5		フセキ(3000)	フセキ(3000)	フセキ(3000)	フセキ(3000)	M剤	
6		フセキ(2000)	A剤(800)	M剤	M剤	M剤	
7		フセキ(3000)	A剤(800)	M剤	M剤	M剤	
無処理							

※登録外試験

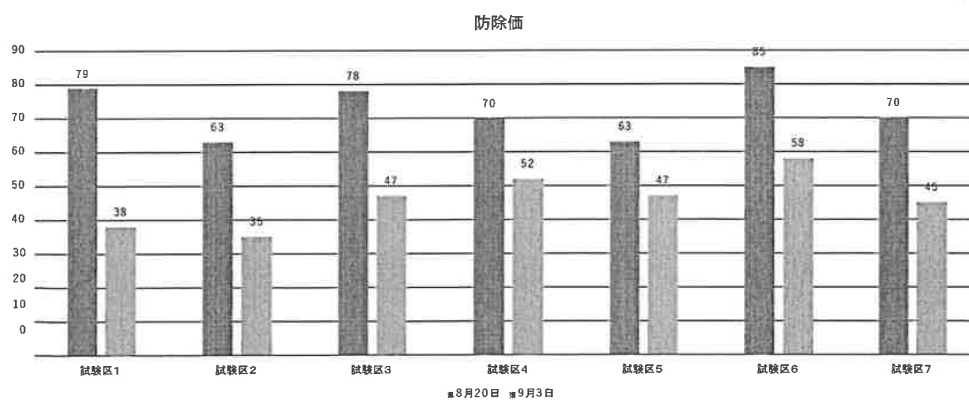
※登録外試験

試験全体の結果：発病度

無：0、少：1～25、中：26～50、多：51～75、甚：76以上

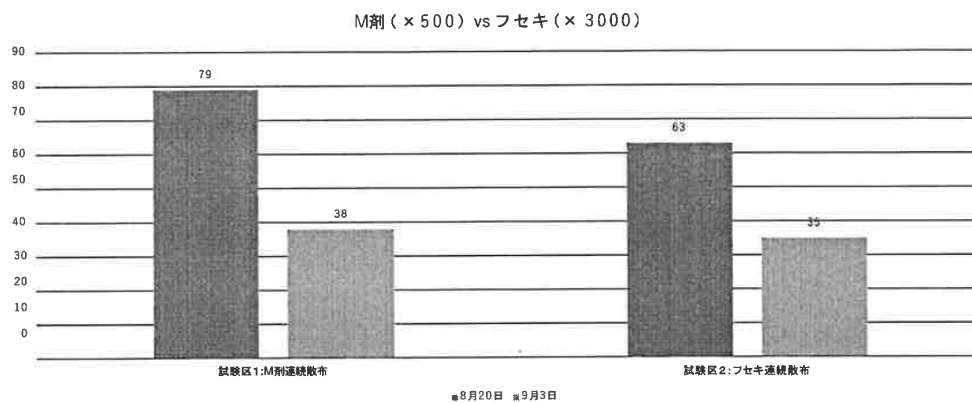


試験全体の結果：防除価



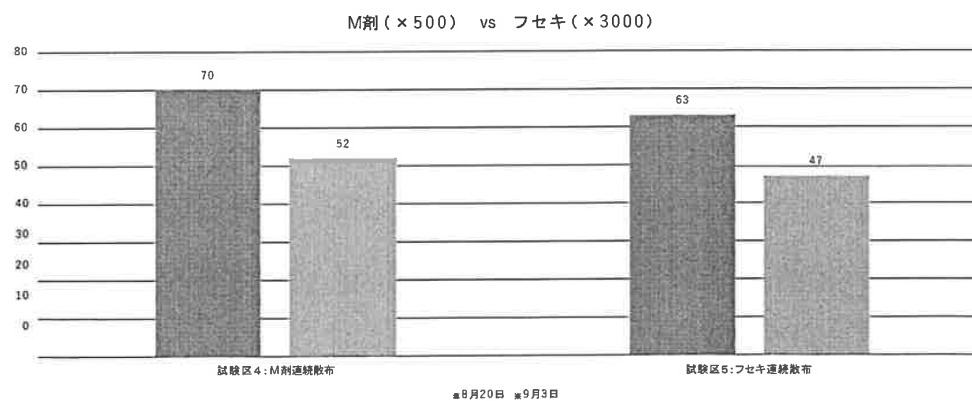
結果①M剤（500倍）vs フセキ（3000倍）

● 散布開始時期 試験区1 6月下旬 試験区2



結果②M剤（500倍）vs フセキ（3000倍）

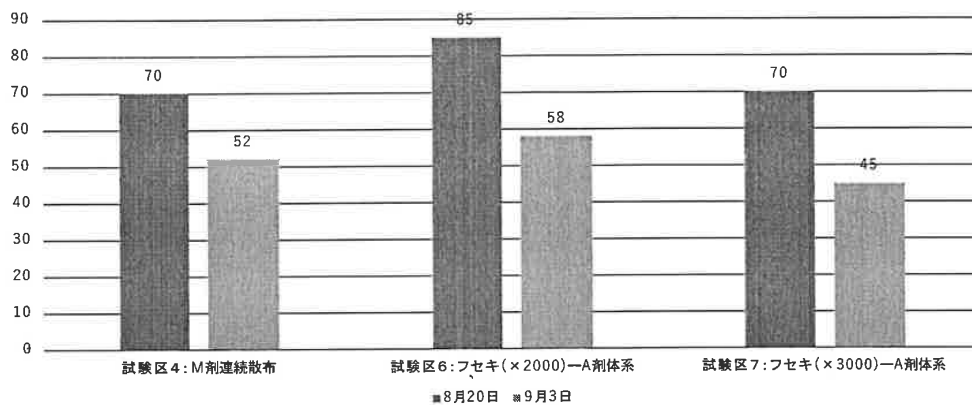
● 散布開始時期 試験区4 7月上旬 試験区5



結果③M剤体系（慣行体系） vs フセキ－A剤体系

試験区4

試験区6、試験区7



試験結果まとめ

●慣行剤との効果比較（結果①、結果②）

- ・慣行剤をM剤（500倍）とし、フセキ（3000倍）と連続散布にて防除効果を確認した。
- ・散布開始時期を6月下旬、7月上旬に設定して実施した。
- ・6月下旬散布開始の結果では、やや慣行剤区が良い結果とはなったが、7月上旬散布開始の結果には大きな差は無かった。
- ・調査株数が少ない事、6月、7月の結果を総合的に判断すると、今回の試験では、慣行剤、試験薬剤は同等の効果であったと考える。

●慣行体系とフセキを防除体系に組み入れた区との効果比較（結果③）

- ・M剤（500倍）の連続散布を慣行体系とし、フセキ及びA剤を防除体系に組み入れた区との防除効果を確認した。
- ・フセキについては2000倍区、3000倍区の2濃度の区を設けた。
- ・フセキ2000倍－A剤を体系に組み入れた区が、慣行区及びフセキ3000倍区よりやや効果が優れる傾向となり、慣行区、フセキ3000倍区は同等の傾向となった。